



## コロナ禍における婦人会活動報告 その2



知識を常識に  
変える！

令和4年3月8日（火）

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 事務局  
辻 知子



# はじめに

最終改正 平成 28 年 11 月 25 日

## 結核に関する特定感染症予防指針

第一次の本指針は、結核予防法（昭和二十六年法律第九十六号）に基づき、平成十六年に策定された。結核予防法が平成十九年に感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号。以下「法」という。）に統合され、平成二十三年に本指針が改正されて以来、五年余りが経過した。

我が国における結核患者数は減少傾向にあり、人口十万人対り患率（以下「り患率」という。）は、平成二十七年には十四・四となり、世界保健機関の定義するり患率十以下の低まん延国となることも視野に入ってきた。特に小児結核対策においては、BCG接種の実施が著しい効果をもたらしている。しかしながら、平成二十七年の結核患者数は約一万八千人となっており、依然として結核が我が国における最大の慢性感染症であることには変わりはない。

## 第九 具体的な目標等

- 一 結核対策を総合的に推進することにより、我が国が、近い将来、結核を公衆衛生上の課題から解消することを目指す。具体的には、成果目標として、平成三十二年までに、り患率を十以下とするとともに、事業目標として、全結核患者及び潜在性結核感染症の者に対するDOTS実施率を九十五パーセント以上、肺結核患者の治療失敗・脱落率を五パーセント以下、潜在性結核感染症の治療を開始した者のうち治療を完了した者の割合を八十五パーセント以上とすることを目指すこととする。

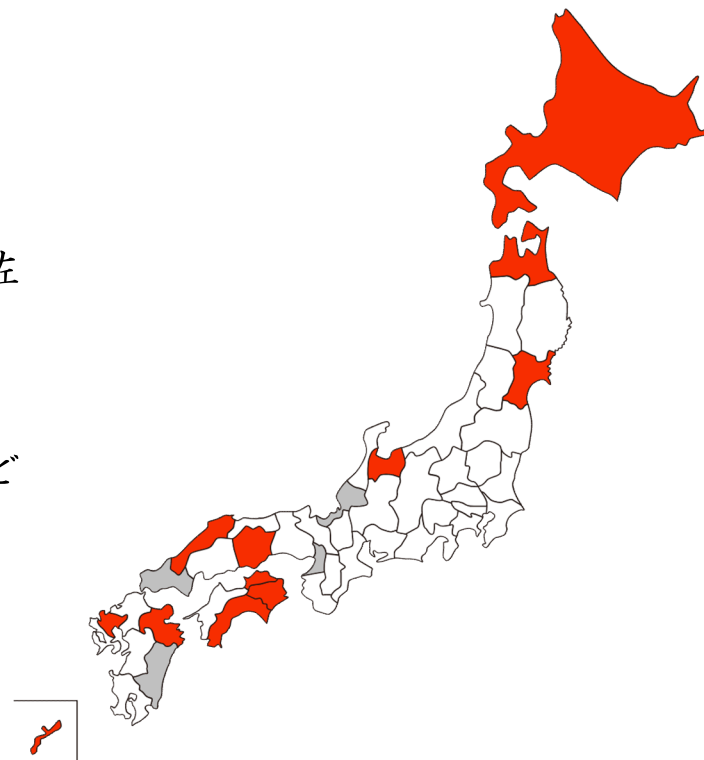
[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/dl/zenbun.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/dl/zenbun.pdf) (2021.11.02閲覧)



## 各地域からの報告

5月30日から12月15日の間に16件の報告を婦人会ホームページに掲載  
(49の会員中、12の会員から報告)

- ・マスク等の作成および寄贈
- ・知事表敬訪問 (7/28～10/27 26県)
- ・新型コロナウイルスワクチン接種会場での誘導・消毒補佐
- ・感染リスクを考慮した書面による研修会の開催
- ・オンラインによる研修会 (ハイブリッド含む) の開催
- ・少人数によるSDG s の勉強会および新規会員の勧誘
- ・シールぼうやを使用した結核予防啓発グッズの作成 など





## COVID-19 感染拡大防止のための 令和 3 年度活動報告No.1

ワクチン接種が徐々に始まり、日常生活を取り戻すために少しずつ婦人会活動の範囲を広げています。

1年以上続いている感染防止の啓発活動は、新たな局面を迎えました。婦人会では、地域ごとの感染状況を考慮しながら、活動を継続しています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

### <高知県健康づくり婦人会連合会>

高知県では、コロナ禍で延期を余儀なくされた健診事業ですが、感染対策をきちんと行っていれば、健診は不要不急ではないことが少しずつ地域でも浸透してきました。

健診会場や各種研修会の時には、積極的に消毒や体温測定の実施をしています。もちろん、会場設営時の準備のときから、終了後の退出のタイミングでも、手指消毒を呼び掛け、使用什物の消毒作業にも協力しています(写真1、2)。



写真1 健診後の消毒作業



写真2 健診会場でも結核予防の啓発は忘れません



## COVID-19 感染拡大防止のための 令和 3 年度活動報告No.2

昨年に引き続き、COVID-19 感染対策に細心の注意をはらい、婦人会活動の範囲を広げています。

感染防止の啓発活動は、少しずつ変化してきています。婦人会では、地域ごとの感染状況を考慮しながら、活動を継続しています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

### <一般社団法人香川県婦人団体連絡協議会>

香川県では、会議や講演会等で、マスク着用・手指消毒などが義務化されています。

さらなる感染拡大に伴い、感染者やその家族に、また誤った情報によって、感染していない方々への差別が広がっており、さらには医療関係者やその家族までもがいじめのない差別で苦しんでいます。正しく知って、冷静な行動を呼びかけるなど人権問題にも気を付けるようになりました。

香川県には「NO コロナハラスメント～正しい情報をもとに冷静な行動を～」啓発キャンペーンがあり

ます。この活動は令和2年8月17日から始まっていますが、早くからこの活動に賛同し、ポスターやポップを掲示するなどして普及啓発活動を実施しています(写真1)。

また、県婦連事務局より(写真2)を発行し、婦人会員への情報提供を続けています。この内容は、ホームページでもご覧いただけます。

(<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~kagawakenfuren/dayori.html>)



写真1 キャンペーンポスター



写真2 県婦連事務局より(令和2・3年度の一部)



## No3、4 青森県 8/27、9/9



### COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.3

昨年に引き続き、COVID-19 感染対策を心掛けながら、婦人会活動の範囲を広げています。

感染防止の啓発活動をどのように実施することが望ましいかを常に心に留め、地域ごとの感染状況を考慮した活動を展開しています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

#### <青森県結核予防婦人会>

青森県では、8月1日から始まる全国一斉横十字シール運動を前に、7月30日、種市赤十字会長をはじめ婦人会員4名で、三村市青森県知事に表敬訪問を実施しました。6月には弘前保健所管内で、2017年以降の結核集団感染事例が報告され、COVID-19と同じ感染症として、市町村に対策を指導していただくよう依頼しました。また、横十字シール運動の趣旨を説明し、協力を仰ぎました。その模様は、翌日の東奥日報にカラー写真入りで掲載され、地元テレビでも放映されたとのことでした。また8月10日にはデイリー東北にも同様に掲載されました(写真1)。



写真1 青森県内での新聞報道

婦人会機関紙「健康の橋」7月号9ページでも紹介されていますが、2021年2月に書画研修会を実施しました。4月に入り、会長が所属する青森県結核予防婦人会からいざ町支部でも書画研修会を開催し、5月までに参加者65名中20名から感想文を提出いただきました。

婦人会員のなかで、結核予防運動や横十字シール運動について、また昔のことを思い出して、結核について改めて知る機会を得ました。対面開催が難しい時期で



### COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.4

昨年に引き続き、COVID-19 感染対策を心掛けながら、婦人会活動の範囲を広げています。

感染防止のためにできることを身の回りから点検していくと、新型コロナウイルスワクチン接種がありました。そこで自治体と協力して、高齢者向けの集団接種会場でのボランティア活動を行いました。ますます活躍の場を広げ、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

#### <青森県平内町連合婦人会・青森県平内町日赤奉仕団>

青森県平内町で活動する連合婦人会(三津谷志津子会長)は、日赤奉仕団としても、さまざまな取り組みを行っています。特に5月～7月にかけて、高齢者を中心とした新型コロナウイルスワクチンの集団接種が実施される事を受けて、役員会で話し合いを持ちました。

「服の着脱をはじめ、移動等でも介助が必要な人がいるのではないかと」意見もあり、感染予防に十分留意したうえで可能な限り協力をしようということになりました。

実際には、送迎バスの乗降補助、車いすへの移乗介助、車いすの操作、受付前の書類の確認、手すりや机の消毒、接種場所への案内等、当初考えていた以上に「やること」がたくさんでした(写真)。



車いすの消毒をして、乗降者を待ちます



バスの乗り降りも見守ります

## No5 岡山県 9/13



### COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.5

昨年に引き続き、COVID-19 感染対策を心掛けながら、婦人会活動の範囲を広げています。

一年半近い新型コロナウイルス感染症の感染拡大の下で、さまざまな葛藤がありました。そこで自治体と協力して地域の課題をまとめたり、動画作成など、今までになかった活動に挑戦したりしています。ますます活動の手法を工夫し、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

#### <岡山県結核予防婦人会・岡山県愛育委員連合会>

岡山県では、県全体でまとまって活動することは、非常に難しいことから、各地域単位で活動するようになっていきます。集まることができなくても、声掛け等の個別の活動や、地域ごとにできることに特化して、活動を進めています。

地域の課題や地区ごとの活動をまとめたり、伝承も含め、愛育委員活動を振り返ったりするなど、委員同士で情報共有を図る機会を得ました。

また、各種検診(健診)の希望調査については、当初家庭訪問の予定でしたが、感染拡大防止の観点から、対面を控えるような工夫を行いました。その一つとして、検診チラシの地区回覧を控え、代わりに検診ポスターの掲示箇所を増やし、広く住民に情報提供できるように受診勧奨を行っています。さらに、検診会場では、当日の順番待ちの受診者の動線案内、滞在時間の短縮、3密の防止等、受診者の感染予防に努めながら、ボランティアとして補助活動を行っています。

そして、若者にもアピールすることも重要と考え、真庭市愛育委員会では、「まにわ手洗いうた」DVDを作成し、保育園・学校などへ、感染予防の周知を行っています。なお、この内容は、真庭市公式チャンネルのコンテンツとして動画投稿サイトYouTubeに掲載されています(写真1)。



写真1 冒頭と最後の画面(岡山井Ver.)

岡山井 <https://www.youtube.com/watch?v=hp8KYTVrtMM>

標準語 <https://www.youtube.com/watch?v=z4xBsUGWnVA>



## No6 島根県 9/17



### COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.6

昨年に引き続き、COVID-19 感染対策を心掛けながら、婦人会活動の範囲を広げています。

長引く新型コロナウイルス感染症対策のなかで、さまざまな制約を乗り越えて、独自に考察した事業を実施しています。地域婦人会の魅力再発見、地域間交流、婦人会員増強を目指した活動を現在進行中です。ウィズコロナ時代の婦人会を見据え、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

#### <島根県連合婦人会>

島根県では、婦人会主催の地域交流活動を実施しています。今年度は19団体で計画していますが、そのうちの5団体の報告を簡単に紹介します。

なお、詳細は、島根県連合婦人会のホームページに掲載されていますので、こちらをご覧ください (<https://fuinkaikan.or.jp/>)。

#### ①出雲市佐田地域婦人会

令和3年7月22日(木)に「SDGs勉強会」を開催しました。この地域は、一度婦人会がなくなったのですが、再開を機に勉強会を企画しました。講師に浅津知子氏を迎え、自分で行えるSDGsや婦人会活動について学び機会を得ました。当日、数名の方が新たに婦人会員となっていただきました(写真1)。

#### ②松江市東出雲地域婦人会

令和3年8月18日(水)に「地雷撲滅運動 ちようちよキャンペーンの普及」を行いました。

日本赤十字社島根支部の講師から、地雷の種類、恐ろしさなどの説明を受け、対人地雷の模型を見たあと、オタワ条約へ未加入の国(写真2)にちようちよの形をしたメッセージカードを作成しました。地雷について身近に感じることができました。東出雲中学校のボランティアの皆さんも参加し、総勢46人で書いたメッセージカードを日本赤十字社島根支部に託しました。



写真1 7/22勉強会の様子



写真2 ラオス宛のメッセージカード

1

## No7 富山県 9/21、12/17



### COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.7

昨年に引き続き、COVID-19 感染対策を心掛けながら、婦人会活動の継続に注力しています。

新型コロナウイルス感染症対策の基本を習得し、今までとは少し違った活動を取り入れています。もちろん、従来の定期事業についても、求められる婦人会を目指して、奮闘中です。集まるにも会場の使用制限がかかるなど、方法手段の変更を余儀なくされていますがそれを乗り越え、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

#### <富山県 地域女性ネット高岡>

富山県高岡市の地域女性ネット高岡(会長 米澤陽子)では、新型コロナウイルス感染症防止の徹底を会員に呼び掛けています。毎月開催している定例会では、広い部屋をお借りし、間隔をあけて着席、入退室時には手指消毒を施行し、短時間で終了するようにしています。

さらに、感染者やその家族への偏見をなくし、最前線で活躍される医療従事者への中傷・差別がない社会の実現を願い、シトラスリボン作り教室を7月8日(木)に高岡市ふれあい福祉センターで開催しました(写真1)。

最初はリボンの扱いが難しく、苦労しましたが、講師のご指導のもと参加者は順い進めてたくさんの方のシトラスリボンを作りました。(副会長 北山佐代子記)



写真1 シトラスリボン作り教室の様子

1



### COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.16

新たな変異株「オミクロン株」が世界中で感染再拡大するニュースを耳にすることが多くなりましたが、婦人会は比較的落ち着いた活動を続けています。

そもそもコロナの収束は、もう少し時間がかかることを知っていますし、新たな変異株にも、マスク・手指消毒・三密回避の基本は変わらないことは、常識になっています。コロナに負ける気がしないという強い気持ちで、前進する婦人会活動を紹介します。

#### <富山県婦人会>

コロナ禍で延期していた地域間交流事業ですが、今年も宿泊を断念し、9月29日(水)に1日研修として実施しました。テーマは「SDGsと婦人会活動」と題して、みっちり研修を行いました。

その中で、新型コロナウイルス感染症で苦しんでいる人々や医療従事者への偏見や差別がないように願いを込めて、シトラスリボンの作成を行いました。細かい手作業ですが、一つ一つ心を込めて作りました(写真1)。



写真1 シトラスリボン作成中と完成後

#### <富山県入善町連合婦人会>

11月3日(水・祝)に「免疫力を高めよう 感染症に負けない身体づくり」をテーマに、入善町健康交流プラザ(サンウェル)で行われたサンウェル de フェスタ 2021が開催されました。富山県入善町連合婦人会では、そのイベントに於いて、横十字シール運動を行いました。会場を訪れた方々は、健康に関する知識を深めるとともに、募金にも快く協力してくださいました(写真2)。



写真2 横十字シール運動のブースと協力してくださった婦人会員





## COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.8

第5波の終わりを待ち望みながら、9月末を迎え、COVID-19 感染対策を心掛けながら、婦人会活動の継続に注力しています。

感染症対策は、結核も COVID-19 もほぼ変わりません。長く続く感染対策のため、引き続き婦人会活動を行っています。地区ごとに取り組む婦人会活動を紹介します。

### <大分県結核予防婦人会 速見郡日出町豊岡地区婦人会>

大分県速見郡日出町豊岡地区では、子どもたちの感染が広がっていることを受け、小学校の児童へ、マスクを寄贈しました。地域の方々に呼び掛け、アベノマスクを提供してもらい、それを集めて希望する小学校に寄贈して、喜ばれています。

また、公民館などは、人数制限などを設けていますが、使用可能になってきました。そこで、使用前後に行う消毒用の資材として、雑巾を寄贈することにしました。会員一人一人に、最低1枚は作成していただくよう依頼し、集めた雑巾を消毒用に使用していただくと寄贈しました。

マスクや消毒に必要な資材は、今後しばらく必要になると考えられるので、今後も続けていきたいと考えています。

### <大分県結核予防婦人会 中津地区婦人会>

中津市で始まった新型コロナウイルスワクチンの予防接種では、なかなか予約ができない方もいらっしゃるということがわかりました。

そこで、婦人会員・サロンふれ愛会員・地域の知人を通じて、声掛けを行い、予防接種希望者の申込支援を行いました。電話がつながりにくい、インターネットでの予約がしづらいなど、希望者の話を聞き、それぞれ得意分野の応援を会員等が行いました。希望する高齢者の接種は、7月11日現在で終了したと中津市の広報誌に掲載されました(写真)。

また、予約した方の送迎も対応しました。接種当日、タクシーを呼ばずに、また受付時間に遅れずにワクチン会場に行くことができた、大変喜ばれました。

写真 中津市広報(8/1号)より



## COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.9

緊急事態宣言ならびにまん延防止等重点措置の解除が報じられ、COVID-19 感染対策を心掛けながら、新しい日常を取り戻すべく、婦人会活動の継続に注力しています。

さまざまな行事が中止・延期された去年とは違った活動ができなかったが、まだの絆を強固なものにするにはどうしたらよいが、会員同士で話し合うようになりました。各地区で3密を避けて取り組む婦人会活動を紹介します。

### <宮城県地域婦人団体連絡協議会：名取市増田西婦人会>

宮城県名取市にある増田西婦人会では、令和2年6月の役員会を開き、この場における婦人会活動について、検討を始めました。そこで、3つのテーマについて、会員同士の絆を継続することになりました。

#### ①西小学校のお手伝い

学校からの要望があり、花壇の草取りを実施しました。令和2年は7月17・20日(延べ21人参加)、令和3年は6月16・17日(延べ17人参加)を実施しました(写真1)。



写真1 献花と草取りを実施

#### ②西公民館の「七夕飾りお手伝い」

令和3年6月22日に、児童館児童とともに、七夕飾りに使う短冊用紙の配布を行い、七夕飾りを展示するお手伝いをしました。会員は8名参加し、その内容は、増田西公民館だより8月号に掲載されました(写真2)。



#### 七夕飾り

素敵な七夕飾りと願い事が書かれた手作り短冊が7月の館内に彩ってくれています。みんなの願い事が叶いますように……☆



写真2 参加者と公民館に飾られた七夕の笹

1



## COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.10

緊急事態宣言ならびにまん延防止等重点措置が期限を迎える9月30日に一斉に解除されると9月28日に報じられましたが、COVID-19 感染対策を心掛けながら、新しい日常を取り戻すべく、婦人会活動の継続に注力しています。

コロナ禍ならではの活動を模索し、地域に根ざした活動を展開する活動を紹介します。

### <宮城県地域婦人団体連絡協議会：宮城県七ヶ浜町婦人会>

宮城県宮城県七ヶ浜町では、令和2年7月に、町の教育委員会から、小中学校の新型コロナウイルス感染予防対策のため、学校内の消毒の業務がありました。そこで、七ヶ浜町婦人会とボランティア友の会の協力で行いました。8月から127名で作業を開始しました。

町内には、町立小学校3校と中学校2校があります。町が作成したシフト表に基づき、5か所に分かれて、スクール・サポート・スタッフとして、配置されています。今年(令和3年)は、契約の2年目になりますが、みんなで励ましあって頑張っています。

作業は、基本月曜日から金曜日までで週5日間、1校2名ずつのペアで午後3時～5時までの2時間作業します。

消毒場所は、各教室のドアや窓の取手、階段の手すり、手洗い場、トイレの押しボタンや便座、昇降口の下駄箱等です。消毒液を染み込ませたペーパータオルで、丁寧に拭き取っています(写真1)。



写真1 指定された学校の消毒場所

1



## COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.11

新型コロナウイルスの危険にさらされているのは、予防接種などの接種年齢に達しない小さな子どもたちです。COVID-19 感染対策は、1年半以上たったうちも、変わることはありません。ただ、油断することなく、地道に続けていくことの難しさを感じながら婦人会活動を行っています。

コロナ禍でのボランティア活動において、地域との交流を通じて培った関係性を維持し、地域に求められる事業を展開する婦人会活動を紹介します。

### <宮城県地域婦人団体連絡協議会：刈田郡蔵王町宮地婦人会>

宮城県刈田郡蔵王町宮地地区には、蔵王町立宮地小学校があります。児童数185名、職員数17名の小学校ですが、普段から図書整備事業や、家庭科実習のお手伝いなど、折に触れ、訪問して活動を行っています。

今回、児童・職員との感染防止と教職員の仕事軽減を目的に、新型コロナウイルス感染防止消毒ボランティア事業を行いました。会員に消毒ボランティアの声掛けをしたところ、率先して協力を仰ぐことができました。作業人数は1回あたり15名でした(写真1)。現在は、町で消毒支援員を雇用したので、この活動は終了しています。



写真1 教室内の消毒(左上)、パソコンルームの消毒(右上)  
ロッカーの消毒(下)

1





## COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告№12

結核予防週間（9月24日～9月30日）には、街頭キャンペーンや健康まつりなどの会場でさまざまな普及啓発活動を行ってきました。昨年同様COVID-19 感染対策によって、様変わりしました。ただ、去年と同じことをするわけにはいきません。コロナ禍でもできる活動など、工夫を重ねる婦人会活動を紹介します。

### ＜健康を守る佐賀県婦人の会＞

佐賀県では、県独自の非常警戒措置を9月12日までで解除されましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2年続けて街頭キャンペーンを中止することになりました。なんとか顔の見える活動をしたいということで、サガテレビの情報番組「かちかちPress」に出演し、結核予防週間のPRを行いました（写真1）。画面越しとなりましたが「結核について正しい知識を持ち、健康を守りましょう」と県民に呼び掛けました。



写真1 スタジオでのリハーサル風景



＜健康を守る佐賀県婦人の会：嬉野市地域婦人会＞  
佐賀県嬉野市では、夏休み前の子どもたちに向けて、交通マナー、コロナ対策についてのメッセージ（写真2）を添えて、除菌シートをプレゼントする計画を実施しました。その内容は、小学校の学校だよりに掲載されました（写真3）。

写真2 1年生へメッセージ

地域婦人会より、プレゼントをいただきました  
夏休み前に、1年生の子どもたちの指導に役立ててくださいと交通安全のしおりとかわいい袋詰め除菌シートを届けていただきました。婦人会の皆様には朝の交通指導や学校前の花箱植えでもお世話になっています。ありがとうございます。



写真3 大草野小学校「ほたるっこ」2021年№7より



## COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告№13

新型コロナウイルス感染症対策を継続してきた婦人会は、アフターコロナの方向性を見据えて、感染対策を講じて、通年事業をこなしてきました。もちろん令和元年のままで実施できませんでしたが、熱意をもって会員の交流を続けています。コロナを言い訳にしない婦人会活動を紹介します。

### ＜徳島県結核予防婦人団体連合会＞

徳島県では、「交流芸能大会～三世代交流～」と「徳島県婦人問題調査研究発表大会」という、大きな行事を実施しています。

参加前から参加者・スタッフ全員で、体温測定を各自実施し、体調を整えて大会に臨みました。また、当日の受付では、再度検温・手指消毒を徹底し、分散入場により、密にならないよう、心がけました。もちろん会場内はマスク着用をお願いし、発表者のマイクは、入れ替わるごとに消毒を行いました。

配席も間隔をあけて、休憩時間をこまめにとり、換気に注意しました。さらに、会場では、水分補給のみ許可する、各自飲み物を持参していただくなど、感染対策を徹底し、会話を伴う食事などは、禁止といたしました。

その内容は、広報誌「なでしこ」に掲載しています（写真）。

また、過去の活動もホームページに掲載しているので、ぜひご覧ください。

<https://fujinkai-tokushima.com/activity/>



写真 徳島県 県婦連だより「なでしこ」第31号（2021年3月）より







## COVID-19 感染拡大防止のための

## 令和3年度活動報告No.14

緊急事態宣言、または、まん延防止等重点措置発令中だった結核予防週間（9月24日～9月30日）を過ごした地域も多かった、今年の結核予防の啓発活動を、昨年の方法をさらにバージョンアップさせて、慎重に実施しました。「結核予防」のメッセージをいかに多くの方に届けるのか、そのなかで新型コロナウイルス感染症に関する啓発も続けています。地域に根差した婦人会活動を紹介します。

## ＜北海道健康をまもる地域団体連合会：札幌市北区健康をまもるつどい＞

札幌市では、昨年に続き、結核予防週間に該当での啓発活動を、マスク着用、「結核をなくすための複十字シール運動募金にご協力ください」の幟を掲げて、小声で募金活動を行いました。今年の資料「シールぼうやとシールちゃん」のイラスト入りマスクケース（写真）に加え、その他シール運動のリーフレット、ポケットなどを添えて、啓発活動を行いました。街ゆく人は、少なかったのですが、コロナと同じ感染症であること、また不織布マスク入りのケースもかわいいので、結核について知っていただくいい機会となりました。

また、札幌市北区から情報提供を受け、健康づくりのための食生活改善の普及として、「野菜の摂取」「朝食を抜かない」「災害時の食事方法」などの啓発パンフレットやがん検診受診向上のためのパンフレットやポケットティッシュ等も配布しました。

啓発活動を実施する範囲が細くなるため、啓発資料を複数の地区に分けて配布する必要があり、今まで以上に数量が必要になりました。ただ、上限が設定されているので、なかなか思うほど活動範囲が広がられないことが、現在の課題です。



写真 マスクケース

## ＜北海道健康をまもる地域団体連合会：鷹栖町保健推進委員協議会＞

鷹栖町では、5月18日より75歳以上の新型コロナウイルスのワクチン接種が始まり、65歳から74歳の方の接種券が6月上旬から発送されることを受けて、婦人会員が、予約操作のお手伝いすることを計画しました。

スマートフォンでの予約支援を行う予定でしたが、支援が必要なケースがほぼありませんでした。そこで、ワクチン接種予約会場の「サンホールはびねず」（お風呂や健康遊水室〈温水プール〉のある鷹栖町の施設）に来所された方の誘導や感染予防対策のためのアルコール消毒など、他の内容で実施しました。



## COVID-19 感染拡大防止のための

## 令和3年度活動報告No.15

緊急事態宣言が明け、結核予防の啓発活動の再開に力を入れ始めています。10月にはWHO（世界保健機関）が世界における2020年の結核統計を発表し、コロナの影響による死者数の増加に警鐘を鳴らし、さらなる結核対策の重要性を強調しました。アジア・世界の結核をなくさなければ、日本の結核はなくなるという信念をもとに、地域に根差した婦人会活動を紹介します。

## ＜沖縄県結核予防婦人連絡協議会＞

10月27日（水）に、與那覇信子会長、波平道子副会長、諸見重清江事務局長は、沖縄県知事表敬訪問を実施しました。緊急事態宣言が明け、マスク着用、検温、手指消毒など万全の体制で、沖縄県保健医療部長の大城玲子氏を表敬訪問しました。医療技監兼保健衛生統括監の糸数公氏、ワクチン接種戦略課長の城間敦氏にも同席いただき、複十字シール運動の意義を説明し、シールを贈呈して、協力を仰ぎました（写真）。



写真 左から城間課長、與那覇会長、大城部長、結核予防会評議員会会長森先生、小林事業部長、糸数技監、波平副会長で、記念撮影（幟は新調しました！）

また、緊急事態宣言下ではありませんでしたが、8月には、県内の市町村・保健所・病院・警察署・郵便局・企業やマスコミなど250カ所以上にシールやリーフレット、ポスター等を一斉に送付し、結核予防週間への啓発を依頼しました。今年のシールも好評で、追加発送希望があり、うれしい悲鳴をあげました。

現在は、複十字シール募金への協力依頼のため、電話によるローラー作戦を地道に行い、結核対策の重要性を伝えています。



# 婦人会の挑戦



1. オンラインによる会議を開催  
(令和3年度第2回理事会を2021年11月30日に開催  
オンラインスタディツアー2021を12月16日に開催)
2. 対面の必要性を認識しつつ、業務の効率化を図る  
(監事監査、定期社員総会の書面による議決の徹底)
3. 情報交換のため、月に一度程度に情報発信を行う  
(行事の開催、コロナ活動報告の依頼等)



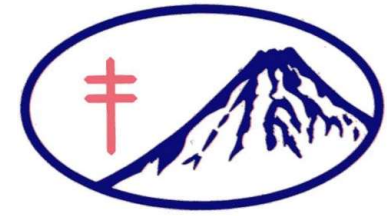
←理事会



←スタディツアー



# 中央講習会は対面開催は2年連続中止 視聴リハーサルを行い、万全の体制で実施



全国大会（2月開催予定だった）の開催方式に合わせると年度当初に決定。次年度こそは「対面開催」できるように準備を始めています。

10月18日からの申込を開始。  
69名の配信視聴のお申込みがあり、  
63名の方に視聴いただきました。





## 婦人会の野望

- ・時代の流れに逆らうことなく、必要な知識を習得し、それを地域に広める
- ・1度で諦めることなく、何度も普及啓発を行う
- ・健診やワクチン接種など求められていることは何か話し合い、これまでの信頼関係を存分に発揮する
- ・さりげなく広めた知識が常識になるように、声掛けや受診勧奨など地域に働きかける
- ・結核もCOVID-19もゼロを目指して活動する



ご清聴ありがとうございました

